

心理的側面から見た保護者対応のポイント

保護者、家族との「関係作り」において必要な視点

白根学園 光の丘相談室

臨床心理士/公認心理師 鈴木 亮太

自己紹介 前置き

アウトリーチが多い

【主な臨床現場と内容】

福祉関連の施設や相談機関、学校、カウンセリング機関（認知行動療法）

カウンセリング、カンファレンス、コンサルテーション、特別支援や発達支援の相談（保育園、中学校）

【連携先】

区役所、病院、福祉施設・事業所、学校、少年院、、児童相談所、鑑別所、保護観察所 など

【対象】（二次相談では）

基本的には知的障害のある方、、、の依頼が多いですが、診断や障害の有無に関わらず、誰でも

【主なケース】

軽度知的障害（境界域～B2程度）のある人の触法、非行傾向のある人

被虐待、引きこもり、不登校、就労に関する支援、症状や問題の改善、克服

はじめに

【本研修の意図について】

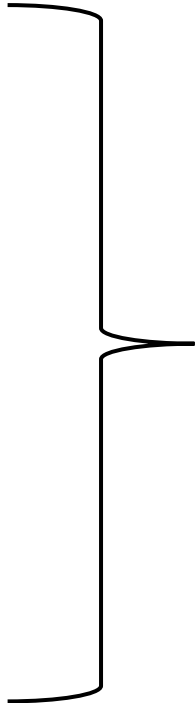
保護者対応の基本的な内容の確認をしたうえで、心理職は何を気にするか（大事にするか）、心理職の専門性がみなさんの日頃の支援のご参考になればと思っています。

また、保護者対応は家族との関係性や支援の協力関係を損なうリスクもある一方で、**戦略的**に行っていけば、お互いの信頼関係を改善、深めていくチャンスでもあります。保護者との関係作りが展開すれば利用者支援（本人）の可能性も広がっていくと思います。

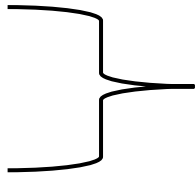
今日の流れ

- 保護者対応について考える
- ワーク
- 基本的な視点、構え（自分は何者か？）
- 関係づくり、コミュニケーション
 - ⇒ ソーシャルワークと心理
 - ⇒ 援助技術、意識していること
- 実践報告（紹介）

- 質疑応答



60～90分



30分

保護者対応について考える

★保護者って誰？

★保護者対応って何？ 保護者対応ってどんな時に考えますか？

★保護者支援

⇒保護者支援とは何をする事？

⇒保護者対応との違いは？

⇒ゴールは？

★支援者の専門性ってなに？

⇒保育のほかに子育て支援、保護者支援は含まれないのか？

⇒どんな知識やスキルは身につけた方がよいのか？

多角的に吟味する

個人ワーク3分 グループシェア5分

- 保護者イメージ（プラス、マイナスなんでも）
- 保護者とはどういう人なのか？
- 関わりにくい（と思っている）保護者とはどんな人？
- 関わりやすい（と思っている）保護者とはどんな人？
- 支援者は保護者にとってどんな存在ですか？
- 保護者にとって話しやすい支援者とはどんな人？

「保護者対応」の基本的な視点と構え

- そもそも相手について考える前に自分が何者かを考える（前提を考える）

⇒ あなたは何者（保護者にとって）ですか？

⇒ 何者（どんな存在）である必要がありますか？

「保護者対応」の基本的な視点と構え

「支援」が成立するのに必要な要素は？

- ・「保護者」と「支援者」という関係性が成立していること
- ・ 専門性を通して作られる信頼関係 ・ 専門性を通しての支援プロセス

⇒ソーシャルワークに関する知識・技術全般とそれに基づく経験

⇒ソーシャルワーク・・・人、モノ、サービスをつなぐ、生活上の困難を解決

ソーシャルワークとしての保護者対応（支援）

⇒ケースワークの活用、相談スキルを通しての保護者相談への対応

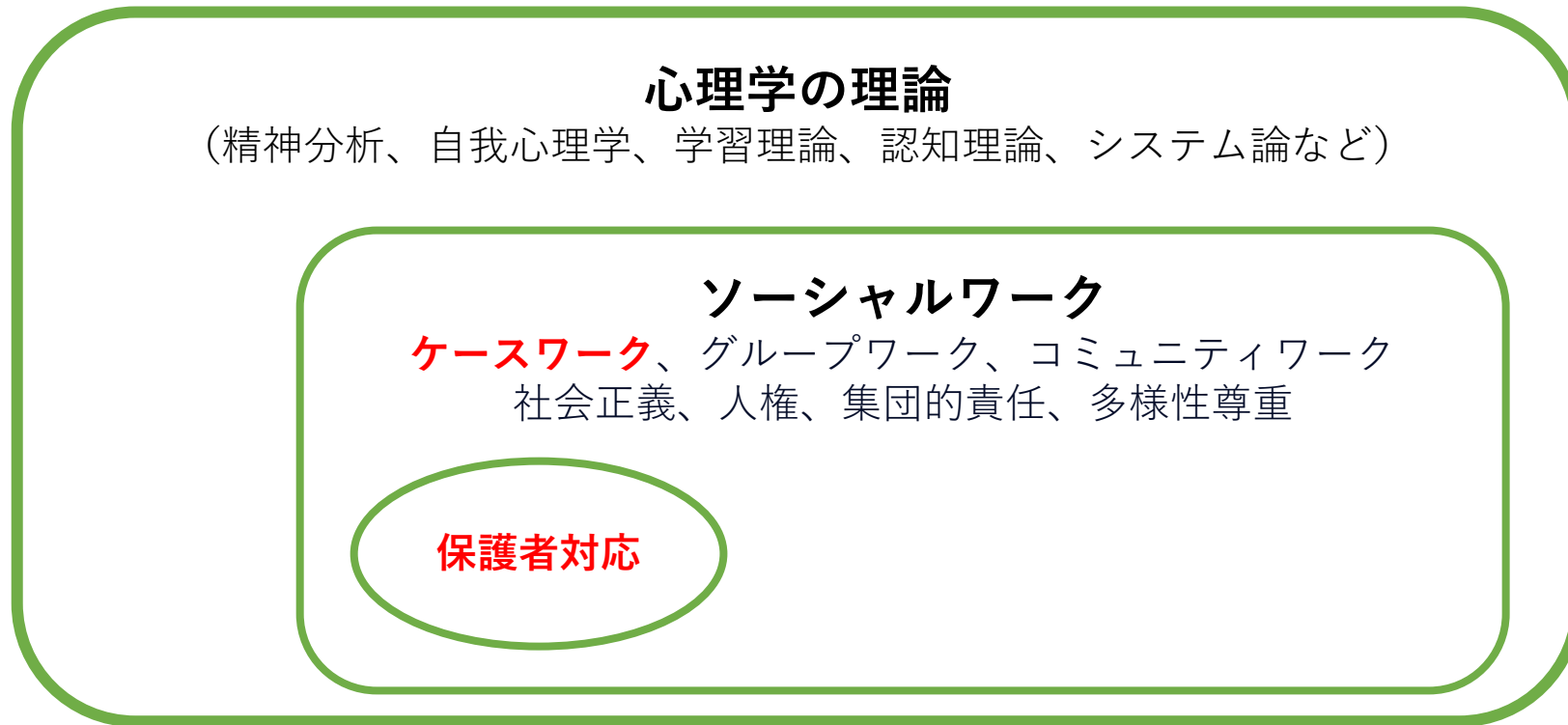
⇒組織的対応（対応を分ける、役割分担、枠組みを作る）

⇒早期の対応、情報共有、情報提供、孤立を防ぐこと

⇒関係づくり、コミュニケーションスキル（言語、非言語、文章）

つまり

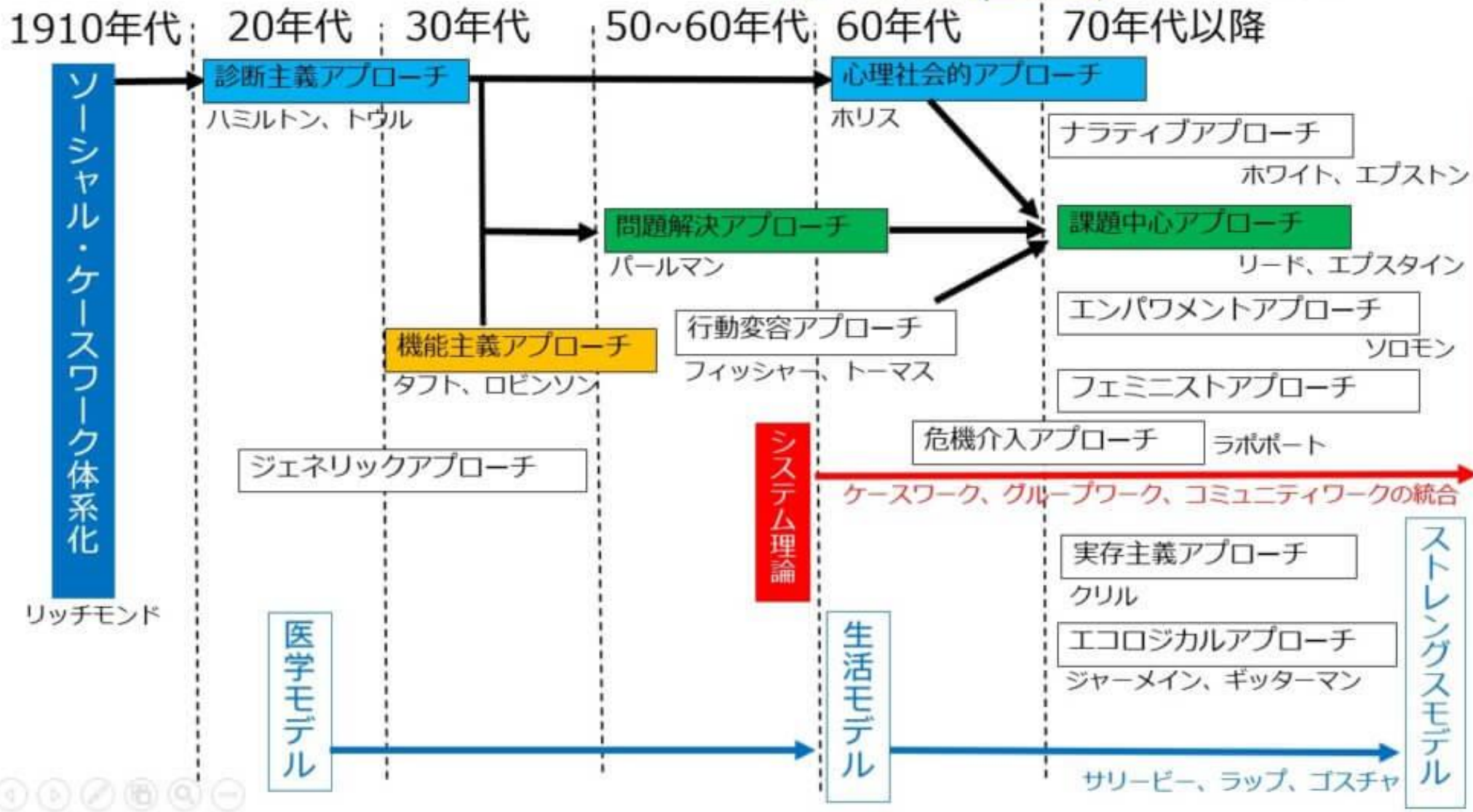
- ケースワークの観点から保護者対応を考えると、心理的な視点は含まれる



- ケースワークとしての保護者対応ってどうするの？

<ケースワーク理論の展開>

モダニズム ← → ポストモダン



ジェネラリスト・ソーシャルワーク



支援プロセスを意識する

問題解決モデルに基づく場合

(パートナーシップを前提とした)

①問題の明確化 ②アセスメント ③プランニング ④実行、評価終結

⇒支援を展開できる、目標に向かって協力し合える関係をつくる

⇒支援者と保護者の役割や関係が支援効果を左右する

対応全体を設計する

⇒**全てを構造化して対応する** いつ、どこで、どんなふうにする、なぜやる

- ・話のテーマを絞る。限定する。主訴（問題）、課題、目標、目的
- ・時間の管理、使い方

⇒**志向性…その人の世界観（問題に対する認識、見方、意味付け）を把握すること**
(保護者を見立てる、関係性を見立てる)

⇒**解決を合理的に進めること（やっけることに根拠を持つ）**

対応初期（面接）に意識すること 相手の心づもりを把握する（相手を知る）

面接の目的、相手のモチベーションについて把握する（得たい結論は？何を想定してるの？）

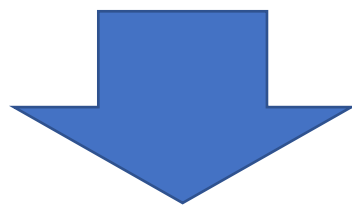
- ・悩んでいることについて教えてほしい、情報を知りたい
- ・理解してほしい、聴いてほしい、助けてほしい
- ・意見を聞かせてほしい、良い方法を見つけてほしい
- ・「来たくて来たのではない」という動機づけが低い など

相手の状態についても気を配りながら対応（面接スタンス）を判断することも必要

- ・意欲や構え、準備ができている人（状態）
- ・自信がない、不安が強い、準備が整ってない人（状態）
- ・アドバイスとダメ出しは紙一重・・・子育ての批判、できない自分、失敗という結論
- ・安心感と相談意欲は比例する 潜在的な悩み、問題の前に関係性
- ・良くなることは変化、変化への抵抗、不安、恐れ・・・支援の回避
- ・相談しても解決、改善に至らないという考えを持っている
- ・その人のリソースを把握する、想像する

話し合いを展開していけるかどうかのポイント

相手の訴えに沿った話の中で自分の判断や評価の根拠となる情報をいかに集め、問題解決を念頭に置いた話し合いが出来ているかどうか。



しっかり「**質問**」が出来ているか

(相手の発言から問題解決に必要なことを読み取れていますか)

話し合いを組み立てる（面接の基本となる質問）

系統的質問

「内容」4つの段階、「形式」8つの質問、「プロセス」4つの意図

⇒ 「どの段階でどんな質問をどんな意図をもって行うのか」

質問の3つの側面

「内容（段階）」

問題を明確に定義する、対処行動の選択肢を広げる、意思決定を行う、検証する

「形式」

記憶、翻訳、解釈、応用、分析、統合、評価、未来志向評価の8つの質問を繰り返す。

「プロセス（意図）」

焦点化、説明、明確化、連続的展開、短文利用

①問題を明確に定義する

記憶、翻訳、解釈、応用、分析、統合、評価

質問の内容と形式について

これ以外の質問形式も使います。一部抜粋。

- 「どんなことに困ってるの?」「いつから?」「どんな時?」「どう捉えているの?」

⇒出来事の状態を把握する

形式…「記憶」に関すること

- 「なぜそう思うの?」「いつもそうなの?」

⇒根拠やメリットを確認する、(思い込みの程度、客観性について)、気づきを得る

形式…「分析」に関すること

- 「どうなりたい?」「どうなっているとよい?」

⇒何かしらの基準に基づく判断を求める。価値を把握する、具体的な着地点(目標)を考える

形式…「評価」に関すること

② 対処行動の選択肢を広げる

記憶、翻訳、解釈、応用、分析、統合、評価

質問の内容と形式について

これ以外の質問形式も使います。一部抜粋。

- 「これまでにどうしてきましたか？」 「○○なら、それも対策と思いますか？」
⇒問題場面に焦点を当てる、すでに持っている情報に焦点を当てて今の問題に応用できるか促す
形式…「応用」に関すること
- 「今の段階では、判断、結論は出さずに考えてみましょう」 「他には？」
⇒視野を広げ、解決のアイデア、対策を考える。
形式…「統合」に関すること
- 「それはつまり○○ということですか？」 「前にあったことと今回のこと、どんなふうに似てますか？」
「それからわかることって何でしょうか？」
⇒2つの視点、考えを示して両方の関係を考えてもらう。ある考えと一方の考えを根拠に基づいて出してもらい、要因同士の間関係を見出す、それぞれの関係をどのように解釈しているか把握する。
形式…「解釈」に関すること

③意思決定を行う 質問の内容と形式について

記憶、翻訳、解釈、応用、分析、統合、評価

これ以外の質問形式も使います。一部抜粋。

- 「やってみたい、上手いきそうと思えるものは？」 「どのくらいならやれそう？」
⇒コスパ、メリットデメリットを考える

形式…「応用」に関すること

- 「実行できそうですか？」 「結果はどうなりそう？」
⇒実行できそうな選択肢、その結果について客観的に評価できるようにする

形式…「分析」に関すること

- 「うまくやれそう？」
⇒行動計画について、結果の推測をする。

形式…「評価」に関すること

④ 検証する 記憶、翻訳、解釈、応用、分析、統合、評価 質問の内容と形式について

これ以外の質問形式も使います。一部抜粋。

- 「どうやって確かめると良いですか？（検証できそう）」
⇒ 実行可能性を考える。上手くやれると思える可能性、確信度をあげることを目指す。
形式…「応用」に関すること
- 「この他にもっとできそうなことがありますか？」 「可能性を上げるには他にやったら良いと思うこと何でしょう？」
⇒ 可能性を高めるためのダメ押し
形式…「統合」に関すること
- 「この結果から分かったこと、気づいたこと（発見）はなんでしょう？」
⇒ 強化、維持、般化の目的、上手くいかなかった場合は、次にどう修正したら良いか、可能なことについて考えてもらうように促す。
形式…「評価」に関すること

「プロセス」 どんな意図をもって質問を行うのか

- **焦点化**…相手の注意、話題を特定の方向へ限定する

例「○○について教えてください。」 「●●●についてですが、…。」

- **説明**…相手の理解を補うように話を付け加える

例「例えば●●●ということなど、…。」 「○○ということが聞きたいのですが…。」

- **明確化**…相手の内面や思いの言語化を促す

例「なぜ、…○○なんですか？」

- **連続的展開**…あることについて質問を続けて、そうした考えや行動が引き起こす反応を予測をする

例「もし、そうだとしたらどう考えますか（どうしますか）？」

- **短文利用**…相づち、話を聞いているということを相手に示す

例「なるほど」 「確かにそうですね」 「そうだったんですね」

保護者の使っている言葉の意味を考える 普遍的定義の内容

- 行動ラベル・・・「パニック」「こだわり」「強迫的」「衝動的」など
⇒いろいろな出来事に共通する問題行動の説明に使う
- 価値基準・・・「良い・悪い」「成功」「ダメ人間」など
⇒特定の状況を説明する際に使われる本人の信念
- 抽象的なもの・・・「家族」「愛」「孤独」「自立」「安定」など
⇒相手の問題を引き起こす原因になりうるもの

知識を否認する わかったつもりをなくす

- 思い込みをなくす
⇒知っていること、わかっていることについて「ほんとにその通りか」を問う
- わかるまで聞く、自分の理解はあくまで仮説にすぎない（仮説の共有）
- 十分に確認してないうちから、理解した気にならない
- 恥をかかせるものではなく、気づきを深めるためのモノ
- わからないから教えてほしいという姿勢

心理士（相談員）として意識していること

- **親、保護者の「健全な部分」と関わる、ネガティブは聞き過ぎない**

★自我機能の安定

⇒ **適応しようとする力（問題解決能力）**

★問題解決に取り組むプロセスが自我機能を安定させる

⇒ 問題解決しようとすること自体が適応しようとする力を安定させる

★ワーカビリティを高める（MOCモデル）

⇒ モチベーション（Motivation） 機会の提供（Opportunity） 能力（Capacity）

- **問題の解決・改善だけでない**

⇒ 「わかってもらえた」「話してよかった」と思ってもらえること

満足感は大事にしている セルフヘルプのサポート、自己決定

実践報告

- 20代女性（通所拒否と復帰を繰り返している、傾聴（系統的質問）と補償）
- 20代男性（在宅、通所復帰、傾聴（系統的質問）と補償）
- 30代男性（在宅、ひきこもりからの回復（通所）、親の会議参加、心理教育、ペアトレ）
- 中1男性（放デイにおける自立支援の長期間フォロー）

本人の将来を考える

⇒「この子にどうなってほしいですか？」

⇒「どんな子でいてほしいですか？」

⇒生活や仕事ではなく、「存在」「在り様」の話

質疑応答タイム

2023 勉強会スケジュール 変更後

年間スケジュール 時間：全て16時～18時（延長の場合もあります）

5月25日、6月22日、7月27日、8月24日、9月28日

10月26日、11月30日（第5週）、1月25日、2月22日、3月28日

※全て16時～18時で行います。

ID：971 4201 5384

パスワード：741 709

5月…怒りの支援（怒っちゃう人、怒れない人）

7月…愛着、トラウマの問題と対応

9月…スキーマの問題② モードについて

11月…認知行動療法（ストレス・コーピング）【基本】

2月…アセスメント力向上（情報を読み取る練習）

6月…不安が強い人の支援

8月…スキーマの問題① 欲求とスキーマ

10月…問題解決の理論とアプローチ

1月…認知行動療法【実践】

3月…リクエスト回

※勉強会の方法は基本的には参加形式になりますが、状況によりセッションの時間も用意します。

https://www.shirane.or.jp/global-image/units/upfiles/79008-1-20230313124936_b640e9d5023d51.pdf

支援のご相談、研修依頼など、気軽にご連絡ください。